

琉球大学学術リポジトリ

奄美大島におけるバナナ栽培について

メタデータ	言語: 出版者: 沖縄農業研究会 公開日: 2009-01-29 キーワード (Ja): 奄美大島, バナナ, 亜熱帯, 生育調査, 収穫時調査 キーワード (En): 作成者: 秋月, 国憲, Akizuki, K. メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002015276

奄美大島におけるバナナ栽培について

秋 月 国 憲

(鹿児島県農業試験場大島支場)

I はじめに

台湾果樹誌(台湾省農業試験所嘉義農業分所楊致福著)によると、バナナは夏季は70°F~90°F(21°C~32°C)冬季60°F(15.5°C)以上の気温で雨量は1,500mm~2,500mmが適しており、風速20m前後の風で仮茎(普通幹又は偽幹と言う)が折損すると言う。

奄美大島における気象状況は第1, 2表のとおりであり気温の点からすれば夏季はともかく、冬季(1~2月)の気温は15°C以下であるから最適の気温であるとは言えない。また年間に2~3回の降霰はあるが降霜はないので栽培は可能である。次に雨量の点では、むしろ過剰気味で問題はない。従って一番問題になるのは風である。

第1表 気温並に降水量(昭和6年~35年間平均)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	全年
気温(°C)	14.3	14.7	16.5	19.3	22.3	25.2	28.1	27.7	26.4	23.0	19.8	16.4	21.1
降水量(mm)	162.8	184.4	219.7	221.0	362.1	442.5	231.3	281.4	296.8	247.4	223.6	160.2	3,033.1

第2表 風速20m以上の台風の頻度(昭和21~37年)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
台風	—	—	—	—	—	—	2	—	7	2	3	—	14

すなわち第2表に示したとおり風速20m以上の台風は1946~1962年(17年間)に14回来襲しており、その2分の1の7回は9月に集中している。

以上のようなことからバナナを栽培する場合、台風を回避して安全に収穫をあげるためには一応9月を風速20m以上の台風が来襲するものと見て、この9月以前に収穫をあげるためにはどうすればよいかと言うことになる。

バナナの植付けの時期は熱帯地方では周年いつでもできるものと思われるが亜熱帯の奄美大島では11月以降2月までは低温と季節風のために植付けはできては活着が困難であるか、または活着しても地上部が枯死し、気温の上昇にともない再び出葉してくるので生育がおくれ、3月以降に植付けしたものと同じ生育状態になる。したがって3月~10月までが植付け時期の中であるが、この中でも5~6月の梅雨時期が最適期である。なお3月

植付けの場合は植付けした年の11~12月に開花することがあり、冬季を経過するので果実の肥大が悪く収穫物はあまりよくない。

以上のようなことから本文にのべるように5~10月まで植付け時期を変えることによって開花並に収穫時期を変え、9月以前に収穫できるか、どうかを試験して見たところ次のような成績が得られたのでここに報告する。

2. 試験の方法

- (ア) 供試品種 仙人種(普通台湾バナナと言われている)
- (イ) 植付け時期 5月~10月
- (ウ) 栽培密度 2m×2m(10a当たり250本)
- (エ) 肥料 (1本当年間施肥量)

N 320g, P₂O₅ 310g, K₂O 430g.

なお肥料は3, 6, 9月に $\frac{1}{3}$ 量づつ分施する。

3. 試験の結果および考察

第3表 生育調査

(イ) 仮茎長

	植付時 cm	開花時 cm
5月植	87.2	262.5
6月植	79.7	306.1
7月植	70.0	269.5
8月植	62.0	251.2
9月植	67.7	—
10月植	50.9	—
平均	69.6	272.3

(ロ) 葉数

	植付時 枚	開花時 枚
5月植	4.4	33.0
6月植	6.7	38.0
7月植	5.7	33.7
8月植	5.0	35.3
9月植	4.7	—
10月植	4.0	—
平均	5.1	35.0

第4表 収穫時調査

	個体別	開花月日	収穫月日	植付～開花 日数	開花～収穫 日数	植付～収穫 日数	果房		
							総重量 kg	果段数	果指数 本
5月植	1	6月6日	9月23日	400	110日	510日	11.900	9	127
	2	6.6	9.11	400	98	498	19.950	13	188
	3	6.6	9.1	400	88	488	19.900	11	297
	平均			400	98.6	498.6	17.250	11	204
6月植	1	7.16	—	440	—	—	—	—	—
	2	7.17	—	441	—	—	—	—	—
	3	7.17	—	441	—	—	—	—	—
	平均			440.					
7月植	1	8.3	—	458	—	—	—	—	—
	2	8.3	—	458	—	—	—	—	—
	3	8.16	—	471	—	—	—	—	—
	平均			462.3					
8月植	1	8.5	—	460	—	—	—	—	—
	2	—	—	—	—	—	—	—	—
	3	—	—	—	—	—	—	—	—
	平均			460					

生育経過をのべると植付した1963年および1964年8月までは、順調な生育を続けて来た。殊にもっとも気温の低い1964年1月が平年より高く暖冬であったので生育は極めてよく5～7月植の全株と、8月植の1株は開花したが、1964年9月24日の台風20号（最大風速33.7m、瞬

間最大48.1m、雨量215.5mm、名瀬東方60kmを北上、最大風速、平均瞬間最大風速ともに名瀬測候所創立以来の極大）により全株折損倒伏したので収穫できたのはわずかに5月植の3株のみであった。

第5表 1963年5月～1964年8月までの気温

	64年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	64年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
平年	22.3	25.2	28.1	27.7	26.4	23.0	19.8	16.4	14.3	14.7	16.5	19.3	22.3	25.2	28.1	27.7
本年	24.9	26.2	28.2	28.1	26.9	22.2	19.5	16.3	15.5	14.0	16.5	23.6	23.0	24.7	28.6	27.5

さて、植付時期別の開花については植付時期がおくれる程、開花時期はおくれる傾向があり、したがって植付けから開花までの日数も、植付時期がおそくなる程長

なってくる。

開花時の仮茎長は251.2～306.1cm（平均272.3cm）、葉数は33.0枚～38.0枚（平均35.0枚）で開花すると果房

の重みで仮茎長は傾斜し、倒伏しやすいので支柱をする必要がある。

収穫できた5月植えは6月6日に開花し、収穫するまでに98.6日を要したが、これは台湾北部の6月上旬開花したものが87日で収穫されるのにくらべて約10日程おそくなる。また収穫した果房の重量は17.250kgで、台湾では台中の水田地帯の平均収量が15.3kgであるからこれをやや上まわっている。しかし、本試験では3本の平均で本数が少いからこれをもっと本数を増せば台湾のものに近づくのではないかと思う。

本試験では台風襲来を9月と規定してこれ以前に収穫できることを目標にして実施しこの想定のとおり9月に

強烈な台風が襲来したので試験の目標に、はからずも一致したのであるが、その結果5月に植付けすると6月に開花し9月中に収穫することができ一応台風襲来以前に収穫するという目的は達せられたわけである。しかしこの中の1株は台風襲来の前日に収穫したものであり、やや収穫が早かったという感じがする。したがって今後はこの開花をもっと早めるように研究する必要がある。

引 用 文 献

1. 楊致福 1951. 台湾果樹誌
2. 台湾総督府農業試験所 1944. 台湾農家便覧